

こんな学校だといいな

高等部の自主通学生は自転車通学でもOKにしてほしい

昔、青森市の中学校は自転車通学は禁止でした。そんな中で育ち、教員としても指導してきましたので、私の中では「常識」？でした。そんなの当たり前じゃーん、とばかりに思考停止です。※今は条件付きで自転車通学を認めている中学校が多いようです。

4年いた蓬田中学校は広い学区でしたので、自転車通学可です。自転車検定試験(4月に全校一斉に試験をします。)に合格した生徒にのみヘルメットが配られ、自転車通学可となります。巡回している職員に違反しているのが見つかったら、免停になりヘルメットは預かりで一定期間徒歩での通学になります。おもしろいシステムだと感心しました。事故は4年間ゼロでした。特別支援学級の生徒も自転車通学でした。

弘前聾学校に赴任して驚きです。ヘルメットも着用せずに、中学生は自転車で通学しています。運転するこちらが怖くなるくらい、並列走行で事故にならないかとひやひやしていました。交流していた小学校の校長先生は、小学校も自転車通学にしていとおっしゃっていて、(だって普段乗るでしょ、が理由です。) ところ変われば「常識」と言われるものは真逆になるなあと考えこんだものです。

こんな学校だといいな

自主自立、自治、希望と責任とは何かを体験的に理解してほしい。これは、教諭時代からのポリシーです。自分たちで話し合っ決めて。人の意見を聞く、自分の意見を言う。決めたことは実践する。見直す。という活動は子どもたちにとっては意義深く、卒業後の力、レジリエンス(困難に打ち勝つ力)にも結び付く力です。

「私たち抜きに私たちのことを決めないで」

この言葉も、大人と言われる私たちは忘れてはいけないと思っています。

高等部の自主通学生は自転車通学でもOKにしてほしい

3人の生徒の希望です。

驚きました。聾学校で自転車通学？ここでも「常識」？が思考させなかったのでしょうか。

【理由】

- ・普通高校の生徒が自転車通学をしているのを見ているから。
- ・朝から体を動かすことができ、体力アップするから。
- ・風を感じる事ができ、すがすがしい気持ちになれるから。
- ・自転車で来るとさっぱりすると思うから。
- ・登校時間の時間が省けるから。
- ・ライトをつけることで暗くても安全だから。

【どうしてだめなのか その理由を考えてみよう】

- ・危ないから。
- ・万が一事故にあった時、いろいろな人に迷惑がかかるから。
- ・聾学校に来るまでの道が狭いから。

- ・自分たちは他の人と違って耳が少し聞こえづらいところがあり、車が通るところではどこから車が来ているのか判断しにくい部分があるため。
- ・もし、怪我をしたら、学校側は責任を負いかねないから。
- ・子どもの安全のため。

3人が最初書いてきた内容です。ちゃんと分かっている。学校のことまで考えている。すごいねえ、と感心しました。3人で話し合ってもっと考えを深めてもらいました。

【3人で話し合ったルール】

(1) 走行前

- ・パンクなど、故障していないか確認する。
- ・周囲を見回す。

(2) 走行中

- ・スピードを出しすぎない。
- ・危ないかもと思ったら急がず、一回止まる。
- ・周囲を見回して車が来ないか確認する。
- ・左側通行を守る。
- ・狭い道の時は、降りて押して歩く。(例えば、校門の前の道)
- ・雨天時はレインコートを着る。
- ・歩道の車道寄りを走行する。
- ・他の人に危険が及ばないか十分気を付ける。

(3) 後輩のことも考えて許可する条件

- ・安全運転を心がけて、もしもふざけたりなどしたら連帯責任で自転車使用禁止
- ・通学ルート許可願提出(ipadと同様願いを個人で出す。)
- ・鍵付きの自転車にする。(盗難防止のため)

一時代前、聴覚に障害のある人は、自動車運転免許は取得できませんでした。今は、取得は当たり前になりました。それ以外にも、たくさんの制限 差別が世の中にはあり、ろうあ運動で権利を勝ち取って現在に至っていることは周知のとおりです。

頭ごなしに「ダメ」とする職員はいないと思っています。これは子どもたちからの大いなる宿題です。担当部署は生徒支援部ですが、大人みんなで深く考えていきたいと思っています。保護者の皆様もどうぞ子どもたちと家族皆さんと話して、お考えをお寄せください。

----- 切り取り -----

自転車通学について

保護者 氏名

お子様から相馬まで